

ポケットにファンタ
ジーな00

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

初めまして！417（しいな）と申します！

この小説はタイトル通り、ガンダム00キャラがポケモントレーナーだったら？という作者の妄想が爆発したものです。時にはギャグに、時にはシリアスな感じで書いて行けたらと思います！あと、設定背景に学園パロディが混じっています。

※キャラ崩壊、原作設定ガン無視になっております。加えて文章表現力も皆無なため、勢いで書いています。

『望むところだ！』な方は楽しんでいってくださいませ！

へ誤字、脱字等がありましたらご報告して下さいると嬉しいですよ

目次

設定	1
いつもと変わらないドタバタ大騒動	7

設定

〈刹那・F・セイエイ〉

ソレスタ高等学園の2年生。物静かな性格だが、ポケモンバトルになると熱くなる。相棒はエルレイド。ラルトスの時から大切に育てている。バトルスタイルは至ってシンプルだが、潜在能力が高く彼のバトルは『バトル中に進化する』と言われている。ポケモン界の権威である、イオリア・シユヘンベルク博士にはトレーナーになった時から一目おかれている。3年生のマリナ・イスマイルとは幼少期に一度会っており、彼女には何らかの感情を抱いているが自身もそれが何かは分かっていない。

〈ティエリア・アーデ〉

ソレスタ高等学園の2年生。博識でポケモンについての知識は彼にお任せ、通称「歩くポケモン図鑑」。後輩のミレイナには振り回されることも多く苦勞も耐えないが、彼女のことは妹のように大切にしている。相棒はルカリオ。バトルの実力は2年生にもかかわらず学園トップクラス。3年生のニール・ディランディに憧れを抱いている。それもあって生徒会に所属、書記を務める。

〈ニール・デイランデイ〉

ソレスタ高等学園の3年生。誰に対しても、どんなポケモンに対しても優しいお兄さんの存在。相棒は、アブソル。将来はトップクラスのポケモンブリーダーを志しており、ただ今勉強中。だが、バトルの実力はトップクラス。豊富な経験と知識でどんな状況でも冷静に分析し、勝利を勝ち取る。ちなみに、現生徒会長。

〈ライル・デイランデイ〉

ソレスタ高等学園の3年生。ニール・デイランデイの双子の弟。少し天然な兄や後輩によくツツコミを入れる、貴重なツツコミ担当の一人。ブリーダー志望の兄とは違って、こちらはレンジャー志望。相棒はデンリュウ。バトルの実力は兄には僅かに劣るが、発想豊かな戦術を繰り出してくるため、対処が難しいと評判。現在同学年でドクター志望で恋人であるアニュー・リターナーにお熱。

〈アレルヤ・ハプティズム〉

ソレスタ高等学園の3年生。温厚な性格で彼がいる場所には様々なポケモンが集まるとか何とか。普段は常識人だが、幼馴染みのマリー・パーファアシーとソーマ・パーファ

シーのことになる。周りが見えなくなる欠点あり。学園内では、彼と双子の弟であるハレルヤ・ハプティズムのタッグに勝てる者はいないとされ、ダブルバトルは学園内最強の実力。ジムリーダー志望。相棒はバシャーモ。

〈ハレルヤ・ハプティズム〉

ソレスタ高等学園の3年生。兄のアレルヤと比べると少し凶暴な性格。だけど、根は優しい。授業はサボり気味だが、実習授業は必ず出席。バトルが大好き。アレルヤとは最強のタッグと称えられているが、ソロでも十分強い。が、本能的なバトルなため、理屈的なバトルスタイルが相手だと敗北することも。幼馴染みのソーマ・パーファシーとは昔から犬猿の仲。相棒はゲッコウガ。

〈マリナ・イスマイル〉

ソレスタ高等学園の3年生。清楚で礼儀正しく、温和なその姿は学園内ではまさに模範生とされている。バトルというよりは、芸術的な方面で周りから高評価されており、コーディネーターになることを勧められているが本人はまだ悩んでいる様子。相棒はサーナイト。

〈フェルト・グレイス〉

ソレスタ高等学園の2年生。大人しく、争い事も好まないため、バトルもあまり自ら進んではしない。ティエリアと同じく、兄のように慕っているニールに憧れを抱き、プリーダーを志望しようと考えている。生徒会に所属しており、役職は会計。相棒はイーブイ。

〈ミレイナ・ヴァステイ〉

ソレスタ高等学園の1年生。明るく、誰とでも仲良くなれる無邪気な少女。ポケモンが大好きでティエリアの下で猛勉強中。次第に博識なティエリアに憧れを抱くようになる。相棒はミミロル。

〈アニュー・リターナー〉

ソレスタ高等学園の3年生。面倒見がよく、しっかり者。学園内では軽くオカンと呼ばれかけている。(主にライルの所為で)ライルの恋人兼保護者。将来はポケモンドクター志望でイオリア博士を尊敬している。相棒は、チルタリス。

〈マリー・パーファシー〉

ソレスタ高等学園の3年生。優しく、他人思い。故に騙されやすい。アレルヤとは幼馴染みで似た者同士だとよく言われる。アニューと同じくポケモンドクター志望。

相棒はエルフーン。

〈ソーマ・パーファシー〉

ソレスタ高等学園の3年生。双子の姉のマリーとは違って堅く真面目な性格だが根は姉と同じく優しい。少しツンデレな面も？幼馴染みのハレルヤとは常に喧嘩しているが、実は無茶をするハレルヤを心配している。将来はライルと同じくレンジャー志望。相棒はロズレイド。

〈リボンズ・アルマーク〉

ソレスタ高等学園の2年生。自信家で先輩後輩構わず見下す癖があるが、実はライルの意志を継ぐツツコミ担当。彼がボケたら色々と終わりだと言われており、少々トゲのあるツツコミをする。他人を見下すが、何だかんだでお人好しというか、優しい面もある。だが、ポケモンバトルになると容赦なく完膚無きまでに相手を叩きのめす。実力はトップクラスのテイエリアと並ぶほど。相棒は、ウインデイ。生徒会副会長で次の会長はテイエリアか、彼かで討論が繰り広げられているとか。イオリア博士の孫であるがそ

のことについて少しコンプレックスを抱いている。

いつもと変わらないドタバタ大騒動

新学期が始まり、私立ソレスタビーイング高等学園は今日も穏やかな時間を一刻一刻と刻んで――

いるはずもなく。

廊下には全力疾走をする黒髪の男子生徒の姿があつた。目的はただ一つである。時は昼、ソレスタ学園では激しいバトルが開かれるのであつた。

所変わって生徒会室。

会長デスクに座つて、そのデスクの主は弁当の卵焼きを口にいれながら楽しげに笑つた。

「さあ、今日は誰が『アレ』を勝ち取るのか。」

心底楽しそうな会長を横目に書記は溜息を吐いた。

「ただこれを見るためだけに僕のルカリオを使わないで貰いたいのですが……。」
「仕方ないだろ、俺の手持ちにエスパータイプじゃないんだからよ。」

そう笑って会長であるニール・ディランディはルカリオの【サイコキネシス】によって映し出された映像に再び視線を戻す。他の生徒会メンバーもその映像に目を向けている。

「……まあ、いつも通りアイツは手に入れるだろうねえ。」

そう呟いて映像の中にいる黒髪の生徒を見つめた。

「本日の目玉商品はずばりタマゴロール！その値段なんと50円！数量限定！お得だよー！」

広大なソレスタ学園のグラウンドでは、一つの屋台があった。その屋台にはこれでもかと言うくらいに人だかりができており、その中に先ほどの黒髪の生徒がいた。彼の名は、刹那・F・セイエイ。彼もこのタマゴロール争奪戦に加わっていた。常に懐が寂し

い刹那にとつてこの戦いは一日の日課の一つとなつていた。

先ほど述べたタマゴロール争奪戦、その戦闘形式は言うまでもなく1対1のポケモンバトルだ。勝ち残つた数名が、あのタマゴロールを手にすることができなのだ。

刹那もすかさず相棒であるエルレイドをスタンバイさせる。そして、次々と周りの生徒に勝利してゆく。

次第にグラウンドから敗北した生徒が肩を落として去つて行く。あと少しで、手に入る！といった所で待つたをかけられた。

その聞き覚えあるその声に刹那は「げっ」と顔を引き攣らせる。

恐る恐る振り返ると金髪の男が笑みを浮かべて立つていた。

「まさか君がいるなんて思わなかつたよ、少年！」

興奮気味な男の声に刹那は数歩後退る。

「ぐ、グラハム……先生。」

慌てて「先生」を付け加え、グラハムと呼んだ男を睨む。

「お前も、タマゴロールを狙っているのか！」

仮にも先生に向かつてお前呼ばわりとは、些か問題があるが、この際それはおいておこう。

刹那の間にグラハムは勿論だと言いたげに大きく頷いてみせる。

「このグラハム・エーカー、ここ数日懐が寂しくてな！是非とも、このタマゴロール争奪戦に参加を所望する！」

高らかに宣言するその姿は端から見れば『大人げない』ことこの上ないだろうが、この学園の生徒はそんなグラハム先生が大好きなため、静まり返っていたグラウンドに再び生徒が集まり出した。

刹那もそんなグラハムを見て傍らにいるエルレイドと目を合わせては互いに頷き、バトルの態勢に入り負けじと声を張り上げる。

「いいだろう！このタマゴロールを手にするのは、俺だ！」

「ふ、よく言った！少年！」

こうして、タマゴロールを巡って熱き戦いの幕が切つて落とされたのであった。